

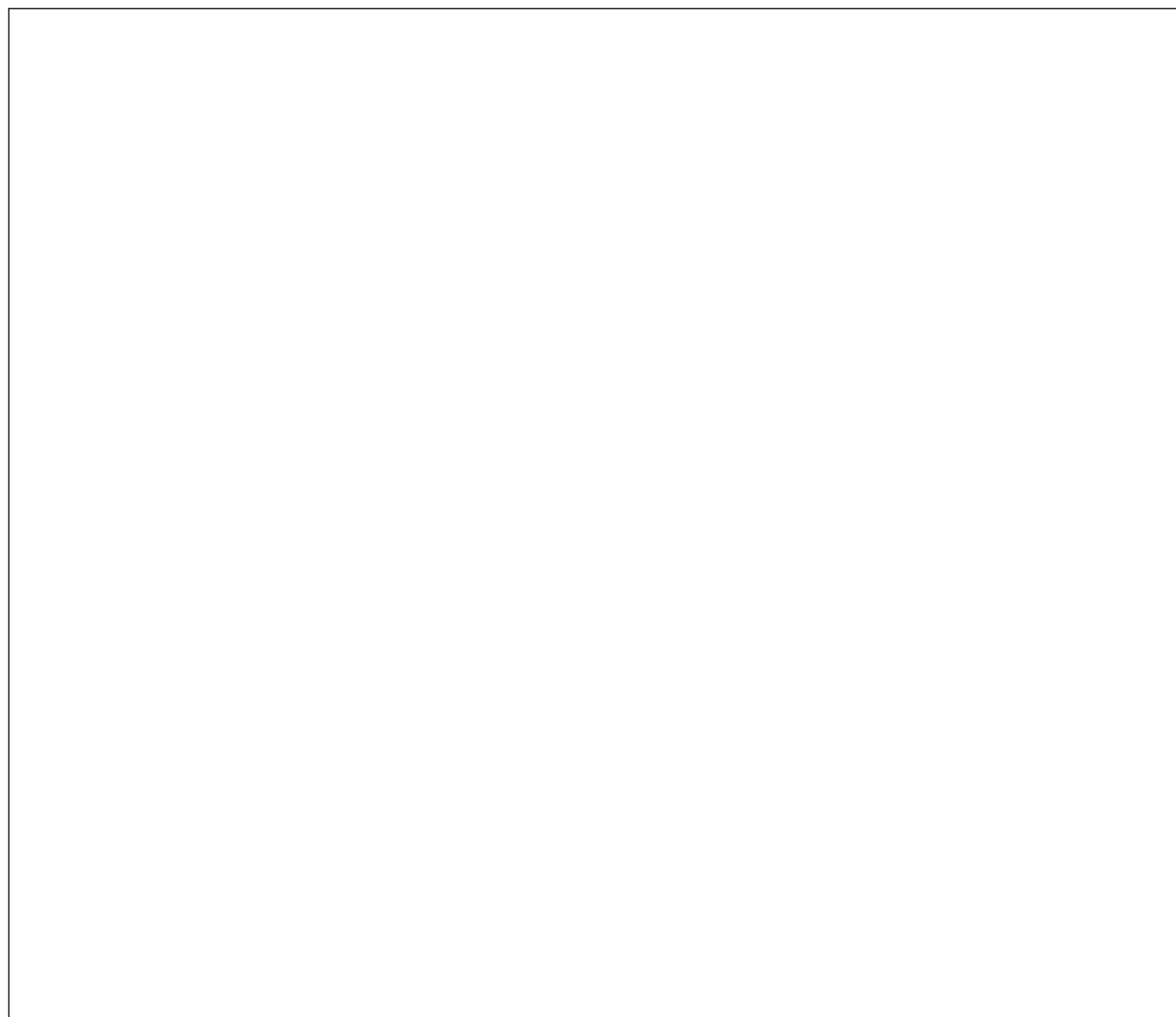
1~3年

美術

新聞コラージュに挑戦しよう

年 組 番 名前

☆新聞紙のカラー部分には、色鉛筆や絵の具にはない微妙な色がたくさん存在する。それを使って、質感を意識しながら自分で形を連想して切り取り、作品を作りましょう。実際には、画用紙やケント紙などを台紙にするが、ここでは、新聞コラージュ(記事はアート)のやり方を覚えよう。



コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

*指導する先生や保護者の皆様へ(静岡市立中田小学校・中村都)

新聞が活用できるのは、記事や見出しだけではありません。カラー印刷してある部分は美術の作品作りとしての素材となります。新聞アートについては、「新聞活用ガイド・小学校編」50ページに「新聞コラージュを紹介」として掲載していますので、参考にしてください。

親子でチョキチョキ

まずはマスターさんの写真。少し新聞を見つめると、形を思いめたた子で切り取っていく(写真をみると見ている)ふつと形が浮かび上がる」とマスターさん。出来上がったネコを宙にかざす

と、歓声が沸いた。
専門学校でデザインを学んだママさんは結婚後、身にあまる新聞を使って創作をスタート。一年大作「ここにいる」で武井講師日本童画大賞を受賞し

た。6月、藤枝市の画廊で開いた個展では、長男の誕生をテーマにした作品を披露した。

作品のときは動物や空想上の生き物(ときどき表情)に思わず笑みがこぼれる。森や海を舞台にした絵題の大作は、無数の生き物たちが織りなす交響曲のようです。

新聞に柄があるを入れるべく、不思議な動物に「乗せ」。焼津市住民の新聞アート作家マスターさん(左)は、カラーリ写真部分を使つたり絵を作っている。鉛筆やペンを一切使わず、新聞紙の柔らかな色彩をもじったユーモアあふれる動物を生み出す。今年の夏休み、静岡市駿河区の静岡新聞社制作センターで開かれた切り絵教室室員内から集まつた親子40人が、静岡新聞本紙の白黒版、「これもかがく新聞」を使って挑戦した。

新聞アート変身

講師のマスターさんはさみさばきに見入る参加者
=静岡市駿河区登昌の静岡新聞社制作センター

